



しらやま

白山小学校だより No.26

令和元年11月18日

◇◇◇◇◇ 1年生の音読発表会 ◇◇◇◇◇



8日(金)、1年生が「くじらぐも」(中川季枝子作)の音読発表をしました。この作品は、児童と同じ1年生が体育の時間に空に現れたくじらぐもにみんなで飛び乗るといふ幻想の世界に入り、想像の世界で存分に遊んだ後、また現実の時間と空間に戻ってくるという話です。音読だけではなく、みんなで手をつないでくじらぐもに飛び乗ろうとする場面や雲に乗って空を旅する場面、くじらぐもと別れる場面などでは、話の中の子どもたちと同化して、自分たちの思いを体を使って伸び伸びと表現してくれました。国語の時間に登場人物や場面の様子を想像しながら楽しく学習してきたことがよく分かりました。

☆☆☆研究授業が行われました☆☆☆



11日(月)に、5年担任の倉橋教諭が「うばわれた自由」という資料を使って道徳の授業を行いました。思いのままに行動することが自由だと思っている王子が、その考えが間違っていることを森の番人ガリューに諭されるものの聞き入れず、その後、王になったジェラル王自身も国の乱れでとらわれの身となり、改めて真の自由の大切さを知るといふ内容です。高学年にもなると、自主的に考え、行動しようとする傾向が強まりますが、自由のとらえ違いをして、自分勝手な振る舞いをしてしまうこともあります。今回、自由な考えや行動の持つ意味、そして、それに伴う自分の責任を踏まえた自律的な行動の大切さに気付かせ、これからの自分につなげることをねらいとして授業が進められました。ガリューが言った「本当の自由」とはどんな自由なのか、出てくる意見を大切にしながらグループでの話し合いもできていました。難しい資料でしたが、ご家庭でも自由と責任、自律について、機をとらえて話し合ってみてください。



12日(火)に、6年担任の辻本教諭が「ブランコ乗りとピエロ」という資料を使って道徳の授業を行いました。ブランコ乗りのサム的身勝手な振る舞いに腹を立てたピエロが、必死にがんばるサムの姿に接することで広い心や謙虚さを取り戻し、互いに認め合う関係になる内容です。高学年にもなると、相手の気持ちや立場を考え、自分と異なる意見も尊重する大切さについて分かってきます。その反面、意見の食い違いがあると自己主張が強くなり、相手の考えを受け入れられない面も出てきます。今回、ピエロの心情の変化を自分との関わりの中で考えることで、自分と異なる意見や立場を謙虚に受け入れることの大切さに気付けるように授業が進められました。特に心情の変化を表す「心情円盤」を取り入れたことで、自分の考えを視覚化でき、主人公の心の中の揺れ動く気持ちに気付くことができました。最後のこれからの自分について考える場面では、ピエロが関わったように謙虚な心と広い心を持ちたいという発表がたくさんありました。